

FRONTEO、経済安全保障ソリューションの新機能により、 自社サプライチェーンの外側にあるリスクを分析 Seizu Analysis にオープンデータと企業保有データを統合

株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本 正宏、以下 FRONTEO）はこの度、独自開発のAI「Loooca Cross（読み：ルーカクロス）」を搭載した経済安全保障ソリューション「Seizu Analysis（読み：セイズアナリシス）」の機能拡張を行いました。

Seizu Analysisのサプライチェーン分析機能は、オープンソースから得られる情報をもとに、膨大なサプライチェーンを解析し、「自社のサプライチェーンに特定のエンティティ（取引が好ましくないと判断された企業等）が潜んでいないか」、「サプライチェーンが特定の国や地域、取引先に依存していないか」、「グローバルにおけるチョークポイントがどこにあるか」を分析することが可能です。通常、企業が自力で自社のサプライチェーンの健全性を確認しようとすると、二次、三次サプライヤーまでしか追うことができないとされています。しかし、Seizu Analysisでは、オープンデータか企業保有のデータのいずれかにデータさえあれば、例えば十次先の取引先まで、上流・下流を含むサプライチェーン全体を把握することができます。

この度の機能拡張では、下記の新たな機能が追加されています。

- ・ **登録機能**

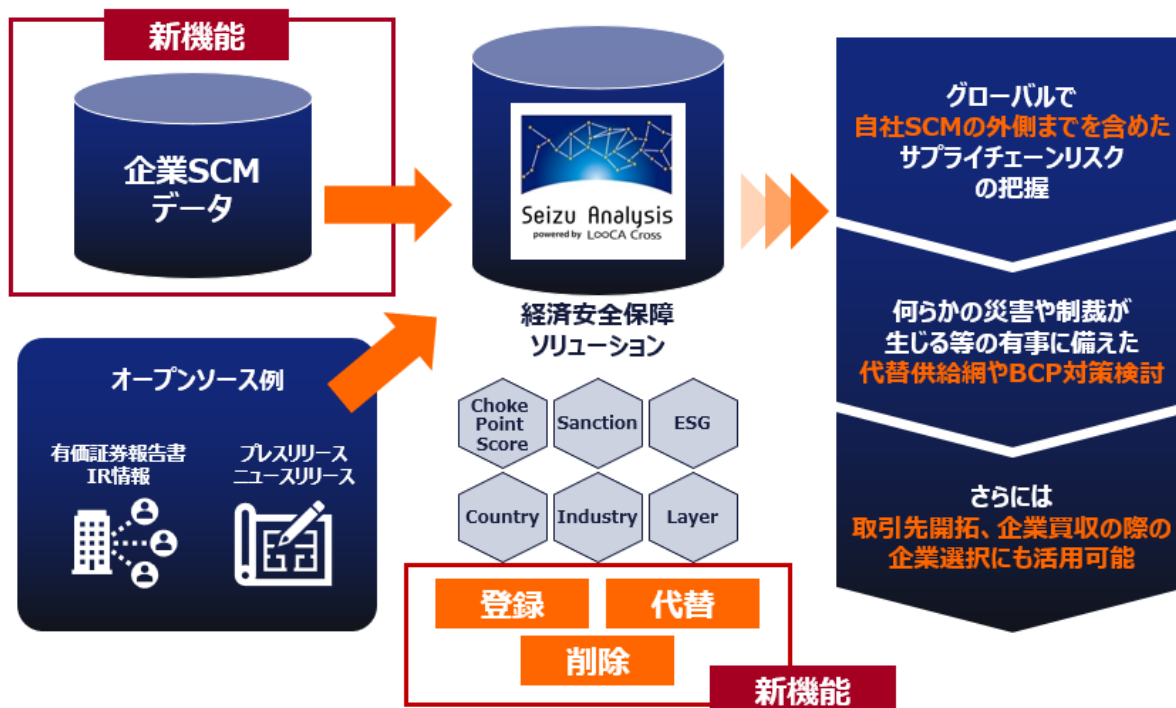
各企業がサプライチェーンマネジメント（以下SCM）ツールなどを使用して保有するデータと、有価証券報告書などのオープンデータの解析結果から導き出されるネットワークパスをSeizu Analysis上でつなげることができます。これにより、自社SCMの活用だけでは見つけることができない、サプライチェーンの外側までを含めたグローバルなリスクを把握することができます。

- ・ **削除機能**

分析したいテーマと関連性の低いパスを非表示にします。これにより、影響は大きくても関連性の低いサプライチェーンを除外することができ、分析の精度を高めることができます。

- ・ **代替表示機能**

現在の取引先の代替候補となるような類似した企業を提示します。これにより、新規取引先開拓、企業買収の際の企業選択への活用や、災害や制裁といった有事に備えた代替供給網ならびにBCP対策検討に役立てることができます。



Seizu Analysis の全体像

これらの機能は、「自社のSCMデータ分析のみでは、世界的な不測の事態などが起きた際に、どれだけの影響があるのか予測ができない」、「仮にこの企業とのつながりがあればどのようなリスクやチャンスがあるかを把握したい」という顧客の声に応え、新規に開発をしました。この機能拡張により、顧客SCMデータにある企業や取引を追加することができ、自社データとオープンデータをつなげることでサプライチェーンネットワークを精緻化し、サプライチェーンのリスクマネジメントに貢献します。

FRONTEOは、今後もLooca Crossを搭載した経済安全保障ソリューション Seizu Analysisを通じて、企業が知りたい情報を短期間で見つけ出し、経済安全保障にまつわる戦略における重要な意思決定を支援してまいります。

■Looca Cross について URL : <https://osint.fronteo.com/>

Looca Crossは、膨大なネットワークの中から意味のあるつながりを見つけることで、経済安全保障のための戦略策定を支援するAIです。世界中の企業の株主や、取引先の情報をつなぎ合わせていくと、巨大で複雑なサプライチェーンネットワークや持ち株ネットワークが浮かび上がってきます。これらのネットワークの中で、モノやサービスがどのように流れていくのか、支配力がどのように伝わっていくのかを、人の力で分析することは殆ど不可能です。このような、人力ではおよそ解析しきれない規模のネットワーク内でのモノの流れやネットワーク内での力の伝搬を捉えるべく、FRONTEOでは新AIエンジン「Looca Cross」を開発しました。Looca Crossにより、莫大な数の見かけ上の取引経路の中から、リスクのある可能性の高い経路を見つけたり、 choke pointとなる企業を見つけたり、何段も離れたところからの企業の遠隔支配を見つけることが可能となります。

■Seizu Analysisについて

Seizu Analysisは、オープンソースから得られる情報をもとに、膨大なサプライチェーンを解析し、その中から特定のエンティティ（取引が好ましくないと判断された企業等）同士のつながりを抽出することが可能です。また、複雑なネットワーク上での株主間の影響力を持ち株比率から解析し、支配力の伝搬を把握するための「株主支配ネットワーク解析ソリューション」、機微技術に関わる研究開発において、研究者の所属組織等に注目した人脈の分析と、それに基づくリスクの把握ができる「最先端技術・研究者ネットワーク解析ソリューション」の3つのソリューションを展開しています。

■FRONTEO について URL : <https://www.fronteo.com/>

FRONTEO は、自然言語処理に特化した自社開発 AI エンジン「KIBIT(読み:キビット)」と「Concept Encoder (商標: conceptencoder、読み: コンセプトエンコーダー)」、「Looca Cross (読み: ルーカクロス)」を用いて膨大な量のテキストデータの中から意味のある重要な情報を抽出し、企業のビジネスを支援する、データ解析企業です。2003年8月の創業以来、企業の国際訴訟を支援する「eディスカバリ(電子証拠開示)」や「デジタルフォレンジック調査」などのリーガルテック事業をメインに、日本、米国、韓国、台湾とグローバルに事業を展開してきました。同事業で培った AI 技術をもとに、2014年よりライフサイエンス分野、ビジネスインテリジェンス分野、経済安全保障へと事業のフィールドを拡大し、AIを用いて「テキストデータを知見に変える」ことで、創薬支援、認知症診断支援、金融・人事・営業支援など、様々な企業の課題解決に貢献しています。2007年6月26日東証マザーズ(現:東証グロース)上場。2021年1月第一種医療機器製造販売業許可を取得(許可番号:13B1X10350)、同9月管理医療機器販売業を届出(届出番号:3港み生機器第120号)。資本金3,034,846千円(2022年3月31日現在)。

※FRONTEO、KIBIT、conceptencoder、Looca CrossはFRONTEOの日本における登録商標です。

<報道関係者のお問い合わせ先>
株式会社 FRONTEO 広報担当
Email: pr_contact@fronteo.com